

1 法人の概要

1) 沿革

昭和15年	12月28日	財団法人村上学園設置認可
16年	4月1日	布施高等女学校開校
22年	4月1日	布施高等女学校附属中学校開校
23年	4月1日	新制高校の発足により布施学院高等学校と改称
24年	2月15日	布施女子高等学校、同中学校と改称
26年	3月13日	財団法人村上学園は学校法人村上学園となる
28年	4月22日	学校法人村上学園布施女子高等学校附属幼稚園開園
38年	4月1日	学校法人村上学園柏原女子高等学校開校
39年	1月25日	学校法人村上学園柏原高等学校と校名変更、男子部を併設
40年	1月25日	布施女子短期大学（42年4月、東大阪短期大学と校名変更） 家政科設置認可を得、開学
41年	1月25日	布施女子短期大学保育科を増設
43年	4月1日	家政科を家政学専攻と食物栄養学専攻に分離認可
44年	4月1日	保育科を幼児教育学科に改称（47年3月廃止）
45年	2月9日	児童教育学科設置認可を得、同年4月1日開設
45年	4月1日	家政学専攻を服飾デザイン専攻に改称 柏原高等学校、女子部を廃止
48年	4月1日	児童教育学科を初等教育学と幼児教育学に専攻分離
63年	3月31日	東大阪中学校廃校認可を得、廃校
平成11年	7月28日	児童教育学科の初等教育学専攻の募集停止届出
12年	3月1日	家政学科に生活福祉専攻設置認可を得、同年4月1日開設
13年	3月31日	児童教育学科の初等教育学専攻廃止届出
13年	5月15日	校名変更認可、平成14年4月から東大阪高等学校を敬愛女子 高等学校と改称
14年	4月1日	児童教育学科を幼児教育学科に、服飾デザイン専攻を生活デザ イン専攻に名称変更
14年	12月19日	東大阪大学設置認可、平成15年4月1日開学 校名変更認可、平成15年4月から東大阪短期大学を東大阪大 学短期大学部と改称
15年	1月24日	校名変更認可、平成15年4月から東大阪短期大学附属幼稚園 を東大阪大学附属幼稚園と改称
15年	4月1日	東大阪大学こども学部こども学科開学
18年	4月1日	敬愛女子高等学校を東大阪大学敬愛高等学校に名称変更 柏原高等学校を東大阪大学柏原高等学校に名称変更 東大阪大学短期大学部家政学科を健康福祉学科に、食物栄養学 専攻を健康栄養専攻に名称変更 家政学科生活デザイン専攻を平成18年度より募集停止
19年	3月31日	家政学科生活デザイン専攻廃止届出
22年	3月31日	東大阪大学敬愛高等学校商業科廃止
22年	4月1日	健康福祉学科を健康栄養学科に名称変更 健康栄養学科生活福祉専攻を平成22年度より募集停止
23年	3月31日	健康栄養学科生活福祉専攻廃止
23年	4月1日	東大阪大学こども学部アジアこども学科開設
28年	4月1日	東大阪大学短期大学部健康栄養学科を実践食物学科に、幼児教 育学科を実践保育学科に名称変更
30年	4月1日	東大阪大学短期大学部介護福祉学科開設

2 平成30年度事業計画における進捗状況等

1. はじめに

「働くママを応援します」プランの土曜預かり保育が2年目に入った。毎週2人から3人の利用者があるものの、極端な増加はなく昨年度並みで推移した。しかし、昨年度と同じように、保育所や子ども園などからの転入者が多くなってきている。他園と比較は出来ないものの、入園志望理由を見ると、施設や環境の充実、保育内容の充実などの情報を得て、転入園してきた園児たちが多くなってきた。行事紹介や保育の場面のブログ発信、保護者の幼稚園に対するプラス評価の情報が、大きな要因になっていると思われる。

次年度も保育の質の向上や行事内容の充実を目指し、多くの子どもたちが入園してくれるよう、引き続き努力したい。

2. 幼児教育の質の向上

昨年度からの新幼稚園教育要領に沿った保育研究は継続して行えた。今年度は、全員が保育研究授業を実施し、対話的な指導を取り入れ子どもたちの主体的な活動を促す保育の改善に取り組んだ。特に10年未満の教員については、複数回の保育研究授業を実施させ、授業力の向上を目指した。経験者とともに、10年未満の教員の指導力も向上してきているが、まだ、課題は残っているため、今後も継続して保育実践を行い魅力ある保育の実践に努力していきたい。保護者アンケートの中にも、アクティブラーニングへの期待も見受けられ、幼稚園教育の質の向上は、今後の本園の評価につながる重要な取り組みになる。少子化の中で、園児を獲得し続けるためには、ぜひ達成していかなければならないと考えている。

3. 2歳児未就園児体験保育（サクランボルーム）の充実

今年度も50人近くの園児の獲得をした大切な取り組みであり、昨年度の内容と新しい取り組みなどを取り入れ魅力があせないよう努力した。担当教員の配置にも工夫をして、次年度も50人の確保を目指したい。今年度は園長補佐による「コロコロ子育て講座」を開催し母子分離した後、保護者を対象に講座を開催できた。毎回20人程度の参加があり、次年度の開催要望も出ているため、継続して取り組みをしていく予定である。

4. 預かり保育の充実

預かり保育の人数が昨年度に比べ大きく増加している。働きながら幼稚園を選んでいただいたことが大きな要因といえる。しかし、在宅でも子供の成長目的で預かり保育を利用されている保護者も多く、内容の充実が求められてきた。本年度は、カリキュラムを組み内容に工夫を凝らした。また2クラスに分けて保育を試みた。異年齢集団での保育であるためその良さを生かしながらの保育を実施した。おおむね保護者には好評であり、次年度はさらに充実をさせたい。また、次年度からは、幼児教育の無償化による預かり保育の増加が見込まれるため、人員の確保や保育室の確保の課題が予想されるため4月からの実態を把握し、適切な対処をしていきたい。

5. 本園の特色のある教育の推進

○自然に親しむ体験学習

入園アンケートで上位を占め、大きな本園の特色となっている。今年度も、計画通りの作物と共に、新しくトウモロコシの栽培も始めた。年長児のみの取り組みであったが好評であったので、次年度は全園児分の栽培をし、魅力をさらに高めていきたい。

6. 課外活動の内容の充実

空手、体操、英語、水泳、サッカー、チアダンスなど参加園児は多くなっており、希望する種類も多くなってきている。特にサッカーは女子も含めて多くなっているため2班に分けて実施した。指導者の確保が次年度の課題となる。

7. 配慮児研修の充実

発達障害の園児についての研修、少子化・核家族化による子育て支援を要する園児についての研修を実施した。3歳児については、言葉の未発達の子どもが年とともに増えてきている。会話の機会の減少、テレビ・スマホゲームの普及、兄弟姉妹の減少などから本来の発達より発語などが遅い子供が増えてきた。保護者との面談や言語の専門家の構音検査を含む指導などを実施し対応した。今後もこの傾向は大きくなるので、教員の研修内容を検討し次年度につなげていきたいと考えている。

8. 教職員の研修、自己評価、園経営のビジョンの共有
 - ・教員の外部研修への参加を積極的に実施した。
 - ・評価育成システムを活用し、教職員の自己研鑽を喚起した。
 - ・教育の質の向上が今後の園児獲得の大きな柱であることの周知徹底を図った。
9. 市内小学校との連携、地域連携を深める
園児の小学校への接続のために、西堤小学校との連携をはじめ、配慮児についての引継ぎなどを丁寧を実施した。又、自治会や地域高齢者施設の訪問など行った。保健所、障害支援センター、子ども家庭センターとの連携を深め、子育て支援に取り組んだ。
10. その他
2019年10月からの幼児教育無償化に対する、市や幼稚園協会の説明会に参加し、情報の収集を行った。

3 財務の概要

別添 平成30年度	資金収支計算書	
	事業活動収支計算書	
	貸借対照表	
	財産目録	
	監査報告書	参照